

Computer Report

Vol. 51 No. 8 8月号 (通巻 683号)

はじめの言葉

■世界サッカー選手権で日本女子チームがチャンピオンに輝いた。見事である。見事なお転婆娘たちの快挙に日本中が湧いた（今も湧いている）。「なでしこジャパン」と彼女たちを呼称しているが、この「なでしこ」という呼称には違和感がある。そんなもって回したような表現ではなく、なりふりかまわず全力蹴球し、全速快走をした彼女たちの爽やかな「じゃじゃ馬ぶり」に心より敬意を払い、素直に乾杯したい。

■それに引き換え、まったく爽やかさが感じられない末期的な現政権が、彼女たちに国民栄誉賞を授与することを決めたという。その発表記者会見で「決して彼女たちの快挙に便乗する意図はない」という官房長官談話が言い訳のように添えられていたのは抱腹ものだった。そういう意図はあるかないか、口先でいくら弁明しようが、チャッカリ便乗している事実は拭えない。何とも情けない。そして山積している問題解決に何の影響もない。

■福島第一原発事故の後に発生した放射能洩れに関して政府は、何度も官房長官談話として、放射能を被った地域の野菜は、年間を通じて食べても大事に至らない量だと繰り返してきた。が、ほんの数ヶ月間、飼料の稲藁を与えられた食肉牛が被曝していたことが判明した。しかもその量は、国の決めた安全被曝量の何倍もだった。しかも、その稲藁が放射能汚染されたのは、警戒区域から100キロメートル以上離れた宮城県だった。

■今一度、原点に帰って、食べても良いとされる生産地域の放射線量/放射能レベルを明らかにしてもらいたい。未だに、宮城県、福島県のモニタリングデータが計測装置「調整中」のままで、汚染の実態が明らかにされていないのは不可解だ。福島原発に最も近い地域での測定データが採れないとしている政府の神経が理解できない。そんな状態で、はるか遠方の田んぼで干されていた稲藁の汚染具合が分かるわけがない。

■世紀の特許ドロボウ国「中華人民共和国」が、国家の威信をかけて本格稼働をさせた高速鉄道で大事故が起こった。どこまでも「独自技術の集大成」と、誰も信じない大ボラを吹いてきた中国だが、事故車両を解体して現場近くに埋設してしまった。理由は事故原因の隠蔽のためと思われる。事故の犠牲者や怪我人の数も、正確に明らかにされないままである。とても「人民の国家」とは思えない。陰湿な国家体質を世界に曝した格好だ。

■菅政権の放射能汚染の実態隠しは、中国の列車事故原因の隠蔽体質を笑えない。このままでは、世界に中国と同列レベルの恥曝しをしてしまうことになる。放射能汚染から国民を守る姿勢を見せて欲しい。市民生活をベースとした国家である証を世界に示して欲しい。後追いで、汚染牛の生産農家への補償支払を決めるなどしているが、それよりも先に、汚染状態の情報開示こそが急務である。現状把握なくして対策はあり得ない。

■国民の知りたい情報を伝え切れない事態に、情報処理産業としてのコンピュータ業界が対応できていないのを尻目に、一般国民が実態調査に乗り出している。日頃「情報の共有」を謳い上げている業界が、放射能情報/汚染関連情報という国民的関心の高いテーマへの取り組みで遅れを取っている。ITだ、ICTだと製品販売に熱心なだけで、肝心な情報への関心度が空洞化しているようである。将来が案じられる。（藤見）